

分 か る と 快 感 !

Z会ナビ

算数

理科

社会

お題

雪が多い地域の共通点

(京都大学 2016年 地理)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

北ヨーロッパ西岸に多雪をもたらす仕組みを、風と海流、山脈の名称を挙げて説明せよ。

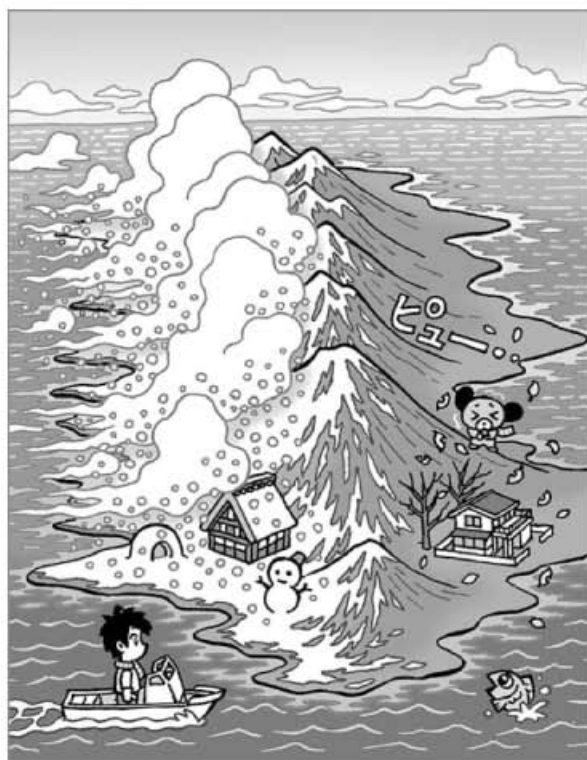
日本で雪が降る仕組み

雪は、空気中の水蒸気が冷やされて氷の結晶となり、溶けずに落ちてくる現象です。簡単にまとめると、①水蒸気が多いこと、②それが冷やされること、③気温が低いことの三つの条件がそろったときに、大雪が降るといえます。

ただし、気温が低いと水蒸気が空気に含まれにくくなるため、①と③の条件はなかなか両立しません。北ヨーロッパ西岸や日本の日本海側は、世界的にも雪が多い地域であり、三つの条件がそろった珍しい地域です。

まず、日本で雪が降る仕組みをおさらいしておきましょう。高学年の人は、学校で習っているとします。冬の日本には、大陸から北西の季節風が吹きます。この季節風は、もともと冷たく乾燥しているのですが、日本海の上を通るときにたくさんの水蒸気を吸い込みます。水蒸気は、暖かい南の海から日本海へ流れる対馬海

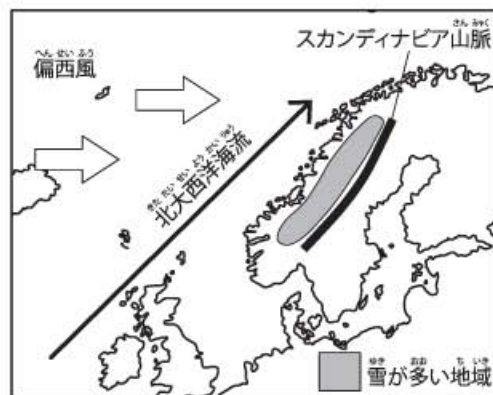
図1



イラスト・瑞木匠

山脈にぶつかり、冷やされる、という仕組みは同じですので、答えをつくってみてください。

図2



雪が多い地域として、トルコ北東部や、アメリカ合衆国の五大湖南岸も有名です。どんな地域か、地図で見てください。

応用すること

似た現象が起きている二つの地域には共通した要因があるはずです。こういったことを見つけ、考える力が、社会という教科の応用力の一つです。社会では覚えることがたくさんありますが、知識を身につけ、仕組みを理解することで、応用することが可能になります。

【Z会・河合新】

今回の教訓
日本で雪が降る仕組みを北ヨーロッパに適用して、解くことができました。

日本海側と共通の要因

流によってもたらされます。そして、水蒸気を含んだ季節風が越後山脈や奥羽山脈にぶつかり、空気が高いところに運ばれて冷やされ、水蒸気が雪になって降るのです(図1)。

地図を比べてみよう

北ヨーロッパは、日本よりかなり高緯度であり、寒い地域です。図2は北ヨーロッパの地図ですが、図1の日本の地図と似たところがありますね。暖かい海流からの水蒸気が風に乗って



河合新さん 2010年Z会入社。
小学生向けの社会の教材編集を担当。
趣味は地図や映画を見ること。
1984年、岐阜県高山市生まれ。